

長野市内路線バスの減便を伴う時刻改定についてのご説明

長電バス株式会社

日頃は路線バスをご利用いただき、ありがとうございます。

長電バスでは、5月29日より、長野市内の路線バスの土休日ダイヤを改定し、路線によっては土休日の運休や大幅減便が発生します。

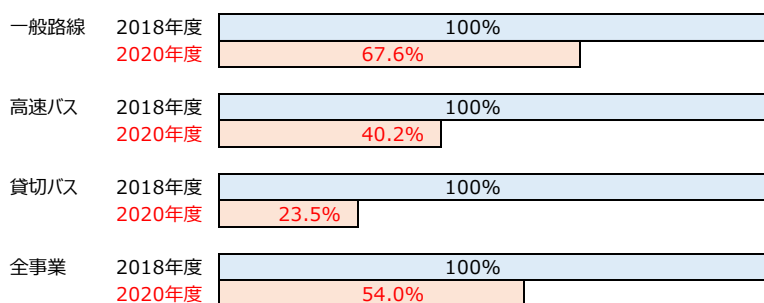
今回の時刻改定は、昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響で、弊社のバス事業の収益構造が大きく変化していることから実施するものです。

そこで、本件の理由と、背景となる収益状況、利用状況について、ご説明をいたします。

1. 路線バスの大幅減便の理由

- ▶ 新型コロナウイルスの影響で、バス利用者が減少しており、収益が悪化しています。
- ▶ 路線バスではもともと欠損が発生しており、これを貸切バス・高速バスの利益で補填していました。新型コロナウイルスの影響で、それらに大幅な欠損が発生し、路線バスの欠損を補える事業がなくなってしまいました。
- ▶ このように、全事業で収益が悪化している中で、事業を維持するためには、アフターコロナ社会においても持続可能な事業構造に変えてゆく必要があります。
- ▶ 今後も引き続き公共交通の維持を行うために、路線バス事業の収益を向上させ、事業単独で収益を生むことが出来る体制に近づけるため、利用状況や収支状況などを総合的に判断し、まずは土休日の時刻改定を行うこととなりました。

2. 売上の変化



※2018年度が通年で平常営業であることから、これを比較対象としています。

図1 売上の比較（2018年度を100とする売上比較）

- ▶ 本来利益の出る貸切事業の売上が大きく悪化しています。
- ▶ 全事業を総合すると、売上は通常期の54%程度です。

3. 損益の比較

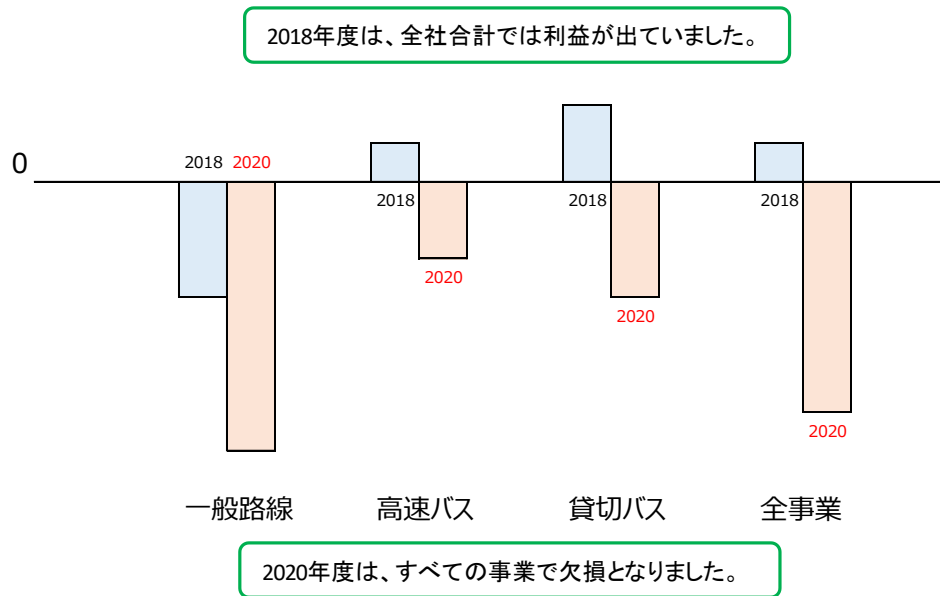


図2 損益の比較（2018年度と2020年度との比較）

- これまでは、路線バスでは損失が発生していたものの、貸切バスや高速バスの利益により、全事業では利益を出していましたが、2020年度はすべての事業で損失が発生しています。

4. 新型コロナウイルスによる路線バスの利用状況

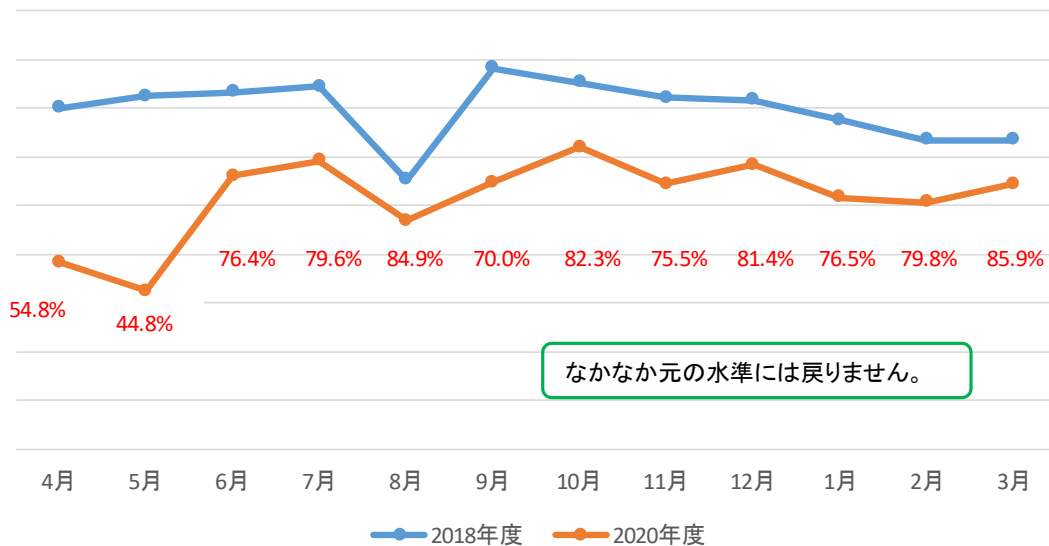


図3 長野市内路線バスの利用者数比較（2018年度と2020年度との比較）

- 長野市内の路線バス利用者（ICカード利用者）は、昨年の緊急事態宣言時には大きく減少し、その後回復傾向にあるものの、2018年度の70～85%程度で推移しており、完全な回復は難しい状況です。

5. 土休日の利用者の減少率

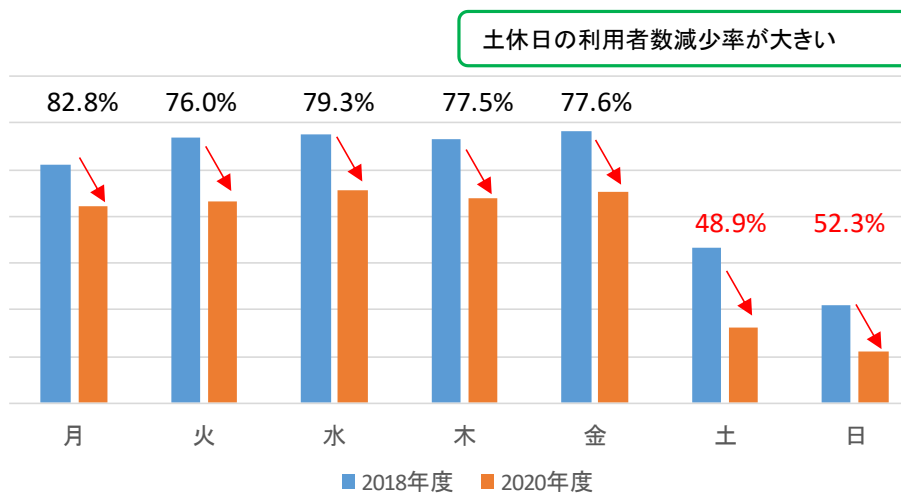


図4 長野市内線の曜日別利用者推移（2018年度と2020年度との比較）

- 通勤、通学など定期券でのバス利用は年間通じて 80%ほどまで回復していますが、定期券以外の利用者数は回復せず、特に土休日の利用者は以前の半分程度までとなっています。（注：2020年6月20日より、土休日の減便を実施しています）